

# 支部だより

## デュッセルドルフ外語会第56回例会 関谷恭子(D平9)

2002年11月4日、デュッセルドルフの日本料理屋“スシバーン”にて第56回例会が開かれました。今回は長年デュッセルドルフに駐在された4年間デュッセルドルフ外語会会長を務められた塩出氏が帰国されることとなりその送別会を兼ねた会となりました。参加者はその人徳のためか14名(男性7名、女性7名)と比較的多く、大変賑やかに華やかにそして楽しいひと時を過ごすことができました。塩出氏には長年のお礼としてドイツの記念品およびドイツが誇るCarl Zeiss社製ルーペが目録として手渡されました。

会長だけでなく副会長、幹事とたて続きに帰国されたこともあり正式な引継ぎおよびお披露目は今回ははじめてとなりましたのでここで紹介いたします。会長：塩出正人(D昭49)→森正孝(Po昭54)、副会長：橋口昭八(D昭31)→伝田敦夫(D昭35)、名誉幹事：三丁目俊三(D昭37)栗林重徳(D昭42)、幹事：笠原佳吾(D昭58)→芹沢美妃(D平11)関谷恭子(D平9)

また今回の例会には新規に3名の方が参加されましたが、いずれも女性で、近年の外語大の状況を反映しているとの声がかかれました。またデュッセルドルフ外語会の名簿を更新したところ会員数でも女性が男性を上回る結果となりました。筆者(女性)の立場からするとこれは全く驚くべきことではありません。特にデュッセルドルフには日系の会社に現地社員として就職する女性が多いこともあります。また景気の悪さや会社の統廃合で日本からの出向組みも減少しているようで、この傾向はしばらく続いていくことでしょう。

長年ドイツにいらっしゃる大御所から、日本から派遣された方、現地社員として働く方等立場はそれぞれ異なりますが同じ学び舎で学んだという共通点だけで楽しくお話することができなのが外語会の何より魅力です。次回会合は未定ですが、年に2-3回を目標としています。デュッセルドルフ周辺にお住まいの卒業生の皆様からのご連絡をお待ちしております。出席者：伝田敦夫、三丁目俊三、栗林重徳、斎藤容子(U48)、

塩出正、大岡誠一(S昭50)、森正孝、小池豊(E昭56)、大谷マリ(U平1)、石原彰子(D平3)、田沼久美子(D平8)、平井里絵(D平9)、関谷恭子、芹沢美妃

## 大分県支部同窓会

幸 郁 (IM昭57)

平成14年11月16日(土)、大分市内の大分東洋ホテル「中国料理北京」で大分県支部の同窓会が開かれた。当日は県内在住の同窓生38名中12名が参加し午後5時半開会。幸幹事の欠席者近況報告の後、家田敬三さん(F昭16、84歳)の挨拶、阿部比多生さん(R昭24)の乾杯で始まり参加者全員自己紹介をまじえながらの近況報告を行いつつ中国料理を味わった。そして、別府大学の吉家哲夫さん(E昭38)の脱サラ人生の話や、大分大学の日高貢一郎さん(M昭47)の大学生の就職の話や豊和銀行の桑原淑江さん(Ph平13)のバンブーダンスの話などあり、時を忘れて笑い歓談した。また、来年は福岡県支部との交流や大学からの出張講演も考えてもよいのではないかとという案も出た。最後に次期幹事の穴井孝義さん(E昭57)の挨拶の後最年少の桑原さんの一本締めで楽しかった会も来年の再開を約束しつつ散会した。出席者：家田啓三、阿部比多生、溝口啓二郎(D昭42)、吉家哲夫、田原豊(E昭47)、日高貢一郎、田村正三郎(S昭47)、穴井孝義、幸 郁、秋俣好朋美(E平5)、阿南万季代(IM平7)、桑原淑江

## リオ外語会

加藤玲子(E平3)

2002年もあと1月という12月2日夜、リオデジャネイロ外語会が、市内フラメンゴ区のフロリダホテルで開催された。今回は97年と98年の2年連続でカーニバルにポルタ・バンデイラ(旗手)としてリオの検舞台(?)を踏んだ石黒路子さん(Po平11)と、国際交流基金日本語専門家としてリオ連邦大学に派遣されている下橋美和さん(平13大阪外大大学院日本語科卒)という若い女性が2人も参加したのが特徴。かつては50人を軽く超えたりオ外語会も、日本企

業がブラジルでの営業活動をやめたり、リオ支社がサンパウロに吸収されたりした結果、会員数がぐっと減り、24~5人になってしまった。それも、当地に移住した人が半分近くで、平均年齢は高くなるばかり。若い卒業生が数多く来伯してほしいものだ。この夜は10人が出席、先輩後輩うちとけて語り合った。

## 東京外語会宮城支部の復活総会

和田真人 (U平10) 石井将勝 (R平11)

平成14年9月28日(土)に東京外語会宮城支部の復活総会が仙台市の「江陽グランドホテル」で開かれました。「宮城支部」とはいつても、宮城県以外に福島や岩手、山形などの東北各県から約40人の方々が参加。卒業年度は昭和21年から平成12年までと、まさに「老若男女」が世代を越えて語り合う盛大な総会となりました。この日は、本部より副理事長の神奈川孝子さん (F昭37) と雅彦さん (F昭36) ご夫妻をお迎えし、孝子さんの乾杯の音頭で会は始まりました。それぞれの近況報告に始まり、かつて外語大で教鞭をとっていた名物外国人講師の話や部活動の思い出、仕事や旅行で訪れた海外各地の話題などで大いに盛り上がりました。特に盛り上がったのは、東京の中野にあった「日新寮」にまつわる話。寮に住んでいた方々が、当時の様子を語り始めると、皆が興味深く聞き入っていました。

宮城県にも、かつて外語会があったのですが、長らく休止状態でした。そのような中、日本経済新聞のニューヨーク勤務時代に外語会のニューヨーク支部長を務め、現在、野球部OB会の会長でもある大原進さん (E昭29) を中心に宮城支部の復活を願う面々が集結。大原さんには、あふれるバイタリティでぐいぐいとメンバーを引っ張っていただき、山崎恭平さん (U昭41) と布施京子さん (I昭59) には本部との連絡や会場設営、案内状送付、当日受付など大変ご尽力いただきました。支部長には、大原さんが出席者の拍手により承認されました。

ところで、この日の司会を務めたのは、入学年度が一緒の和田、石井の両名。2人とも大勢の人前で話す緊張感から舞い上がってしまいました。大原さんの叱咤激励を受けながら、なんとか最後まで進行することができましたが、次回以降に多くの反省材料を残しました。

約2時間の総会の後、お酒を飲み足りない方々は東北最大の歓楽街である国分町のネオン街へ。二次会、三次会へとなだれ込みました。二次会では「バイソラキンキラキン」と懐かしの「キンキラ節」が飛び出し、最後には手拍子に合わせて、ほとんど絶叫調での大合唱となりました。皆の笑顔に包まれた復活総会。次回の日程は未定ですが、皆の要望もあり、近く開催されることはまちがいないでしょう。

## サンティアゴ支部

田中路果 (M昭61)

南米の優等生と言われ、安定的な経済成長を遂げてきた当地チリも、ここ近年、世界不況の影響をもろに受け、実質GDP成長率1.7% (2002/1-8月昨対)、失業率9.7% (2002/7-9月期)と、景気にブレーキがかかっている昨今です。しかしながら、スイスの経済調査機関、IMDの国際競争力ランキングにおいては、20位 (2002年)と、落日の我が日本国をも差し置いて (30位)、近隣2大国のジェットコースター経済とは比較にならぬ安定性を示してはおります。国民性もラテンのイメージとは異なり、良く言えば、まじめで勤勉、悪く言えば、暗く陰湿なキャラですので、サンティアゴの地中海性気候と相俟って、我々日本人には、比較的住みやすい環境と言えます。

様々な意見があるとは思いますが、今のチリがあるのは、軍政期の国内治安の引き締め、その後の民政移管 (1990年) 後の政治体制の安定、25年以上にも及ぶ自由開放経済の継続という要素が、下地になっているのは、否定できないと思います。そんなチリに居住する外語会支部のメンバー、伝統的にこじんまりした人数構成で、それでもここ10年以上は、継続して10人以上の会員を擁してきたわけですが、ここきて、帰国者相次ぎ、とうとう6人という野球チームも組めない (ビーチ・バレーはできますね) 小所帯となっております。現在も含め、ここ最近のメンバー的には、男性は全員、当地法人の経営者、即ち社長さん、女性もすべて、世界を股にかける国際機関のキャリア・ウーマンで構成されております。とまあ、最初はカッコつけさせてもらいましたが、してその実態とは言えば、現メンバーのみならず、伝統的にこの支部メンバーは、落第、卒業延期、中退などの、在学経歴に

おけるキズ者が大半を占め、ほぼ全員(E科卒者等を除く)、自分の専攻語のアルファベットすら諳んずることができないという、およそ「外語卒です」と名乗ることのできぬ、日陰者揃いでございます。そのような愉快的仲間たちが集った日にゃあ、サンティアゴのどんな洒落た店であっても、我々のゾーンだけが、完ッ壁に、巢鴨の安酒屋と化しているというこの事実(当地の美味しいワインのテスティングなども、ゴクリと呷って終わり)。その、人呼んで「サンティアゴ巢鴨タウン(即席)」においては、日智両国の行く末を案じ、構造改革の柱が云々等々、議論が沸騰しまくる、ことは皆無、外国文化を理解するには先ずウンコロジー・セクソロジーから、と言うことで、下ネタオンリーで盛り上がる支部の集い…、そんなこんなのアホ話を投げ合いながら、和気藹々とするうちに、南米チリの夜も更けていく、わけではなく、今の季節、こちらサマータイムですので、お天道様が燦燦としているうちに、完全に巢鴨の酔っ払い集団と化してしまう、サンティアゴ外語会ではございました。こんな集まりで宜しければ、外語会々員の皆様、チリ赴任・お立寄りの際は、是非、ご一報頂ければ、メンバー一同、至上の喜びとなるものでございます。

メンバー(2002年11月末現在)：桜井(E昭46)、宮田(S昭50)、福田(S昭51)、田中、山田(S昭63)、望月(Po平7)

## 長野県支部総会と講演会開かれる

伊沢紘樹 (R昭46)

一般公開の時局講演会、支部総会、懇親会を2002年11月9日(土)、長野市のホテル信濃路で開いた。講演会のテーマは「日中国交正常化30年と今後の中国」。講師は元共同通信北京支局長で大東文化大講師の中島宏氏(C昭33長野県上田市出身)。中国共産党の第16回大会が前日開幕したばかりというタイミングの良さもあり、井出正一元厚相(長野県日中友好協会長)をはじめ約60人が熱心に聴き入った。

中島氏は、詳細な聴講者用レジュメを用意して、経済大国、地域の外交大国への道を進む中国の現状を説明した。今後の日中関係については「中国は2008年北京五輪を控えて、対外的には無理をしないだろう。日本に対してはクールな外交を展開してくる」と予測。「日中間で最

大の問題は相互のコミュニケーション・ギャップだ」として、中国側については「日本への理解が不足している。日本に関する教育は軍国主義の侵略と敗戦までで、戦後の日本人の反省、民主主義建設の経験を知らない」と指摘、日本側の問題点としては「戦争被害者の多い中国の世論に無知なこと」を挙げた。そして「国民同士が率直に意見交換、相互交流する場を作る努力の必要性」を強調して講演を締めくくった。講演会は信越放送、長野県日中友好協会の後援によって実施した。

3年ぶりの総会には16人が出席。塩沢鴻一会長(D昭24)が「県内在住の卒業生152人に案内を出したところ、59人から返信があった。外語は卒業生が少ないので、少人数でも中身のある会合をやっていききたい」とあいさつ。その例として母校の第1回「移動大学」を2002年9月、長野市の県立長野高校で成功裏に開いたことを報告した。「移動大学」は地方の高校生に東京外国語大学の魅力を知ってもらうための企画で、小林和男元NHKモスクワ支局長(R昭38長野県茅野市出身)の講演も加わり、高校側に好評だった。池端雪浦学長からも塩沢会長あてに礼状が届いたという。次回総会は3年後に松本市で開く予定。

懇親会には、共同通信長野支局長時代に外語会県支部結成の火付け役となった東京在住の中島氏も加わった。西村春枝さん(C昭31)、阿部敏子さん(F昭54)、小出祐妃枝さん(K平9)と女性3人も出席、参加者それぞれの近況報告を中心に話の花が咲いた。その他の出席者：太田坦(M昭24)、小根山祥一郎(S昭26)、花岡頼充(I昭33)、草間文男(D昭33)、木下俊佐(M昭38)、坂部明(H昭40)、山田真史(E昭42)、岩下隆(C昭45)、斎藤憲(H昭48)若林実(U昭50)

(朝日新聞長野支局長)

## サンパウロ支部

藤原正義(Po平5)

サンパウロ支部ではここ数年会合が開かれていませんでしたが、去る12月7日(日)和井新支部長(Po昭16)就任祝いを兼ねて忘年会を開催しました。服部さん(Po昭14)を筆頭に12名の参加があり、遠くはパラナ州Londorina市から広瀬さん(Po昭30)にも参加していただきました。長年ブラジルに滞在されている方が多く砂

古さん (Po昭26) から1950年代のサンパウロの写真をを見せていただいたり、往年の東西外語会の話しを聞かせていただいたり楽しい時間を過ごしました。今後は、幹事のブラジルでの滞在も残り少なくなりましたが、和井支部長を中心にリオデジャネイロ支部とも連絡を取り、東西外語会の復活も視野に入れながら皆さんに参加していただける会にしたいと思います。出席者：服部利一、和井武一、砂古知久、広瀬行輝、桜井章生 (Po昭36)、藤崎誠寿 (I昭 40)、朝田徹 (Po昭40)、小高孝一 (Po 昭40)、小高利根子 (E昭 43)、横山幹雄 (F昭 47)、吉瀬武尚 (Po昭 62)、藤原正義

## 2002年度福岡支部総会

森山栄治 (C昭52)

毎年恒例の福岡支部総会は、11月16日 (土) に福岡市天神の西日本新聞会館16階国際ホールで開催されました。この日は同ホールで高校生を対象とした外語大主催の「体験授業in福岡」が開かれ、支部としても微力ながらお手伝いした関係で、これに合わせて今年度の総会を設定しました。体験授業のため来福された在間進副学長 (D昭42)、今井昭夫助教授 (V昭54)、野村恵造助教授のほか、外語会会報委員会から本望春夫委員長 (E昭36)、熊本支部から山内良一支部長 (E昭34) にも出席いただき、総勢17名の参加となりました。

田所信成支部長 (Th昭19) の挨拶で会は始まり、在間副学長からは大学の近況を、出前授業を行なった野村助教授からはその印象を、今井助教授には体験授業の責任者として、それぞれスピーチをしていただきました。本望委員長と山内熊本支部長にも挨拶をいただくとともに、酒精の心地よい酔いに頬を紅潮させ、和洋中取り揃えた料理を堪能しながら、会員各位の近況報告を傾聴させていただきました。いずれも外語のOBの知的バイタリティーの溢れた話でした。今回は若い3名、松尾博人 (S平6)、富永恭子 (M平7)、藤丸由紀子 (M平9) の初参加もあり、今後の支部の隆盛を予感させられました。最後に西日本新聞社山崎隆治取締役 (U昭41) の奔走により、余興としてビンゴを行いました。豪華・潤沢な賞品ではありませんでしたが、大いに賑わいました。楽しい談笑のうちに瞬く間に予定の時間を大幅に超過し、来年の再会を約して散会となりました。

## ロンドン支部

沢田博史 (IM昭62)

豆腐1丁、約300円、マクドナルドハンバーガー約700円 (セットメニュー)、回転寿司店では皿の数を極力控えても5000円はくだらない。デフレ日本では想像もつかないお値段が平気でまかり通るイギリス。英ポンドは相変わらず強く (£=約200円)、私たち英日本人の生活は楽なものではありません。

そのような中で開かれた年末のロンドン外語会。12月17日 (火)、幹事団が集合をかけた場所はロンドン中心部にあるイタリアン・ワインバー「L'osteria57」。さすがセンスの良さが光っていました。会費は£20 (約4000円)。「うまいものがない！」ととにかく言われがちなイギリスにおいて、この値段で大丈夫？と思っていたらば、出てくる出てくる見事な料理とワイン。アドリア海に面するイタリアの町、RIMINI出身のメインシェフGIORGIOが新鮮な素材にこだわり、腕によりをかけて作り出す魚介パスタ、ピザそしてリゾット。1992年の開業以来、味へのこだわりは変らない。お勧めはシーフードリゾット「RISOTTO DI MARE」。うまい料理とワインそして気の合った仲間たち。お膳立ては十分。会はおおいに盛り上がり、あつという間に3時間が過ぎ去っていきました。年末の忙しい時期にもかかわらず、現役の学生を含めて18名が参加しました。次回は懐かしのイギリス人英語教師を招く企画も進行中です。皆さん奮ってご参加ください。出席者：安井<猪瀬>純子 (C平1)、岩田紀子 (H現役4年生)、THIELE<岩津>桂子 (E昭51)、大野桜子 (U平11)、小倉<池田>かおる (R昭59)、大貫康雄 (D昭47)、小倉正広 (D昭57)、後藤正喜 (E昭54)、ブライアン<佐々木>恵 (E昭53)、沢田博史 (IM昭62)、茂野玲 (E平8)、長谷川健司 (Pr昭60)、原田豊 (S昭40)、蓮見幸輝 (E昭41)、広澤明 (D昭40)、前田ゆり (U平12)、持田譲二 (D昭59)、山口康浩 (A昭63)

## 秋田支部

佐藤浩一 (E昭58)

秋田では例年より早く冬がやってきましたが、そんな中、秋田支部会が12月7日「第一 (60頁につづく)

## 秋田支部

佐藤浩一 (E昭58)

秋田では例年より早く冬がやってきましたが、そんな中、秋田支部会が12月7日「第一

会館」で開催されました。5年ぶりの開催となります。支部長の三浦金次郎氏が挨拶し、その中で、氏は今年で支部長を退き、次期支部長には幸野稔氏 (E昭36) を推すことを確認しました。

その後懇親会に移り、5年ぶりの再会で大いに話が盛り上がりました。中でも大きな話題は、秋田に平成16年開学予定の県立の大学、「国際教養大学」でした。前東京外語大学長の中嶋嶺雄氏がこの大学の学長に内定していることもあって、「国際教養大学」には秋田支部としても全面的に協力し、いずれ中嶋嶺雄前学長を囲む会をしようということになりました。出席者：佐々木清一 (F昭14)、三浦金次郎 (C昭23)、小西尚志 (D昭37)、井澤徹 (E昭40)、近江猛 (F昭44)、木村三紀子 (R昭48)、米田進 (E昭50)、仲野谷藤吾 (D昭54)、佐藤浩一、大友俊 (E昭63)